

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104133		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム一の宮の里		
所在地	下関市一の宮学園町19-1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町受理日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々は認知症と言う病気を患っただけの同等の人間です。深く豊かな歴史をもった人生の大先輩です。常に「敬愛」「尊厳」の気持ちを忘れずに、その人の喜びや不安な気持ちを分かち合い寄り添っていくケアに努めています。毎日の習慣・ご利用者同士のお付き合い・家事の手伝いなどを通じて『自分の誰かの役に立っている。誰かが喜んでくれている。』と思われているであろう気持ちを大切に、生きがい・やりがいを感じていただけるよう、張りのある生活を提供し行くことを大切にしています。健康面については病院と提携できており、月2回の往診で、医師よりしっかりとケアしてもらっております。安心・安全な体制が出来ております。介護度が重くなった場合には特養が併設されておりますので先々のことも安心して入居できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの利用者の「顔を見たい」との思いに、希望される家族にはリモート面会ができるように工夫されている他、転倒予防についての要望には、職員間で話し合われて、室内歩行訓練を取り入れられ、介護計画に反映されて支援しておられるなど、家族の意見や要望を運営に反映させておられます。外出支援が困難ななか、天気がよい日は拠点施設敷地内の散歩をして周辺の桜や紅葉を眺められたり、夏は冷たいアイスクリーム、冬は職員がつくった雪だるまを室内に持ち込まれて、利用者が少しでも季節を感じられるよう取り組んでおられる他、事業所内での体操やレクリエーション、季節の行事(初詣、書初め大会、節分祭、ひな祭り、七夕祭り、敬老会)、クリスマス会でのくじ引き、工作の日、誕生日会など、楽しみごとや気分転換の支援をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をホールに掲示している。朝礼時出勤職員全員及びご利用者で唱和し、常に念頭に置き、日々の生活の中で実践に繋がるよう努力している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に利用者も一緒に唱和している。月1回の職員会議時に理念について話し合ったり、日常業務のなかでも話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェは、開催されていない為参加できていない。歩行訓練のウォーキングも敷地内のみでの散歩で、近所の方との挨拶も出来ない状況である。人的交流は厳しいが、近くの公園の桜を(遠くから)眺めたり、裏山の鶯の声に耳を傾けたり、高い青空を見上げながら、自然を感じていただいている。	自治会に加入し、市広報で地域の情報を得ている。月1回開催していた認知症カフェは令和元年9月で終了し、ボランティアの受け入れも中止となっている他、地域の行事も取りやめとなっている。コロナ禍で事業所外に散歩に出かけることもできなくなり、小学生や地域の人と挨拶を交わすなどの交流もできていないが、周辺の桜を眺めたり、鳥の声に耳を傾けているなど、自然を感じることを楽しめるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が開催できない状況であるが、電話相談などを通じ、認知症の理解・支援・施設の情報を提供し、発信するように努めている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に評価の意義について説明。全職員に配布しチェック、検討している。常に初心に帰る意義のあるものと認識している。これによりみえてきた改善点は皆で検討して良い方向に努力している。	管理者は、評価の意義を説明し、全職員に自己評価のための書類を配布して記入してもらい、話し合っまとめている。前回の外部評価をうけて 事故防止の取り組みや事故発生時の備えと地域との協力体制の構築などの目標達成計画を作成しているが、評価を活かして具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	・評価を活かして、具体的な改善への取り組みの工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特養と合同で2ヶ月月に一度のペースで開催していたが、市役所からの通達でR2.1.24(金)を最後にその後行っていない。再開できれば、また民生委員・下関警察署勝山交番所長・地域包括支援センター・家族代表で意見交換し運営に役立てていきたい。	会議はコロナ禍で開催しておらず、メンバーから意見を聞く機会を持っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で定期的に、市役所長寿支援課の職員に評価・助言を頂くことは出来ていない。疑義や新たな申請事項が生じた時には電話や出向いて相談し助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当職員とは、電話や申請手続き時に直接出向いて相談したり、情報交換をし協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話で利用者の状況を情報交換して、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアの研修を受けている。禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関するマニュアル」に基づいて、「身体拘束等適正化委員会」を3か月毎に開催している。職員は、内部研修で学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、職員と一緒に出かけたがり、言葉かけの工夫をして気分転換を図っている。スピーチロックについては管理者が指導し職員同士でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で高齢者虐待禁止について研修を行っている。また勤務体制の充実を図り、余裕を持って利用者や接することができるように取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度利用の方が1名居られます。職員の研修を行い、最善の支援ができるような体制を整えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間をかけて、口頭や文書で説明を行っている。疑問点にはしっかり答え、理解・納得して頂けるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に説明を行っている。玄関に関係部署の連絡先を掲示している。相談・苦情を受けやすいようにご意見箱を設置している。	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて利用者と家族に説明している。家族の衣類等持参時や電話で、利用者の様子を伝えて意見を聞いている。年1回事業所だよりを発行する他、電話(月1, 2回)で利用者の状況を知らせている。家族から利用者の「顔を見たい」と要望があり、希望者にはリモート面会とする他、転倒予防について意見があり、室内の歩行訓練を取り入れ介護計画にも活かすなど、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝・夕のミーティング、申送り時に職員からの意見、提案・意見を聞くようにしている。更に日常業務中はいつでも意見・提案の申し出に応じるようにしている。	管理者は、月1回の職員会議時や朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務のなかでも聞くようにしている。日々記入するチェック表(体操、ウォーキング、レクリエーション、家事参加)を職員間で共有しやすくわかりやすい様式に改善するなど、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置され、役割・目標を持って取り組んで行けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い職員の質の向上に努めている。外部研修の情報を伝え、希望に応じ参加できるように勤務等調整している。日常業務においてスキルすべき課題を与え、状況に応じて話し合いを行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。管理者が「認知症実践者研修」と「認知症対応型サービス事業管理者研修」に参加し、受講後は職員会議で復命し共有している。内部研修は、年12回、管理者と看護師が講師となって、緊急時の対応(骨折、鼻出血、誤嚥)食中毒、認知症ケア、口腔ケア、身体拘束などをテーマに実施している。参加できなかった職員には資料を渡して、全職員の共有を図っている。新任研修は、1週間の法人研修と1か月間の事業所研修を経た後、先輩職員の指導をうけながら、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月入所検討委員会があるので意見交換を行い、お互いの情報交換・スキルアップ・サービスの向上に努めている。又法人内のグループホームに随時訪問・電話をして、情報・相談・アドバイスの交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族との話をふまえた上で、本人の話しに耳を傾け、安心できる環境を構築するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に、不安なこと、要望などご家族としっかり話し合い、不安材料を残さないよう信頼関係を築いて行くよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを受け入れ、必要なサービスを総合的な見地から見つめ、最善の支援ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活に中のご本人の体調も見ながら、出来ることに参加して頂きながら、共に過ごす期間を大切にしている。苦楽を共に支え合う関係、その中で自分らしい生活が出来るように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、ご意見をふまえた上で支援している。日々のご本人の様子は、主に電話などで説明。たよりでは写真などを載せ、報告している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・友人の訪問も叶わず、ゆっくりとお話することもできないので、希望される家族には、TV電話でリモート面会をしていただくこともある。なるべくご家族との絆が保てるよう、できる限りリハパンなどはご家族に定期的に持って来て頂いている。	コロナ禍で家族の面会が難しいため、希望する家族とはリモート面会としている。、ハガキや年賀状、電話の取次ぎでの交流を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気分になみがある方も居られるため、その場の利用者の心身の状態を見ながら、お互いに思いやりを持って接することが出来るように見守り、支援している。トラブルの際はさりげなく間に入り、お互い距離を置き、気持ちを落ち着かせて良好な関係が持てるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはご家族に作品や写真をお渡ししている。サービス終了後も連絡を取り、様子を聞いたり、ご家族からの相談を受けたりするなど、これまでの関係性を大切にしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添い共に生活する中で、一人ひとりの思いや希望を受けとめ各人の意向に添えるようにしている。意向の訴えが明確でない方は表情や行動から推し測ったり、家族から情報を得るなど行う。職員間で話し合い、本人の思いに添ったケアができるよう検討している。	入居時の「入所検討調査シート」を活用してアセスメントする他、日頃の関わりの中での利用者の行動や表情を「介護記録」及び「24時間気づき連絡帳」に記入してカンファレンスで話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得て本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各人の生活歴や暮らしぶりの把握に努め家族との情報交換の場を多く設け理解を深めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムに添ってバイタルチェック、生活リズムパターンシートで健康管理を行い、その方の出来る範囲でレク、掃除・食器洗い等の家事参加を促している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・計画担当者・担当職員でケアカンファレンスを行う。本人、家族、主治医、看護師ともカンファレンスを行い、介護計画書に反映している。モニタリングを行い、基本6か月毎に介護計画の見直しを行い、より現状に即した介護計画としている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、月1回カンファレンスを開催し、本人の希望や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングと計画の見直しを行っている。利用者の状況の変化や家族の意向に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の生活の様子、健康状況、排便、水分の摂取量等記録し、職員間で共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対して、職員間で話し合い、検討し柔軟に対応していけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いろいろな組織の方がボランティアとして来訪されていたが、今は出来ていない。ビューティヘルパーは、毎月利用している。(毛染めやパーマも可)		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援診療を利用。月2回の往診がある。他科受診時も支援診より情報提供して頂いている。又受診結果については家族に連絡しており信頼関係に繋がっている。お薬情報・検査結果の写しも渡しており情報の共有化を通じ、適切な医療を受けられるよう支援している。職員にも医師指示を説明し、記録を開示し情報の共有をしている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時の情報としてその日のバイタル等の一覧表を提示している。受診結果は家族には電話で伝え、職員間では朝礼で看護師が記入した「24時間気づき連絡帳」で伝えて共有している。夜間や休日の緊急時には訪問看護ステーションや協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	リズムパーンシートを基に朝礼、夕礼時報告し看護師との情報共有化を行っている。日々の体調変化の報告と合わせ、往診時には医師の適切な医療を受けられるよう事前の健康状態の再確認・打ち合わせを行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	支援診療により吉水内科と連携が出来ている。又昭和病院との連携も可能となっている。入院中はお見舞いを兼ね、病院関係者と情報交換・カンファレンスを行い早期退院できるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時事業所のできる対応についてご家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から往診時に主治医と相談。ご家族と話し合って医療機関・他施設への移設となる支援について方針の共有が出来ている。	契約時に、重度化した場合に事業所のできる対応について本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階で家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合っ、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時、職員と話し合い対策を検討している。対策を実行している中で対策の見直しも行い効果あるものに進化させている。当然ながら応急手当や初期対応の訓練の勉強会も行っている。	事例が発生した場合には、その場の職員が「事故・ひやりはっと報告書」に発生状況、対処状況等を記入している。法人の「介護事故防止委員会」に報告し、そこでの助言をうけて事業所で検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。過去の事故やヒヤリハットのまともに取り組んでいる他、内部研修で緊急時の対応（骨折、鼻出血、誤嚥）、食中毒、熱中症などを実施している。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一建物内の特養と合同で行っている。実施結果の総評も行っている。	拠点施設と合同で、年2回、日中と夜間を想定した火災通報、避難、誘導訓練を利用者も参加して実施している。消防署及び地域の人の参加は得ていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通し利用者の人格・プライバシーや自尊心の尊重を指導している。職員自身もご利用者さんへの言葉掛け時の言葉使い・笑顔を常に意識できている。	内部研修で認知症ケアについて学び、職員は利用者への誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分らしく生活できるように、支援している。またご本人の意思を尊重し、自分のことは自分で決めることができるように適切な言葉かけをするように心掛けている。言葉での表現が難しいご利用者は表情を見逃さないよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業時間や、時間効率を優先することなく、入居者のペースに合わせて、体調や気持ちに思いを寄り添いながら支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に依頼し、本人の好みの服を用意してもらっている。又その人の服装の好みを考えバランス良くおしゃれが楽しめるよう支援している。毎月訪問美容があり好みのヘアースタイル、ヘアカラーをされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みを聞き会話をしながら一緒に盛り付けをしてもらっている。テーブルを拭いたり、食器を洗ったりして頂いている。今は「調理の会」も開催できていないが、再開出来たら、また一緒に調理を楽しみたい。	副食は三食とも法人の配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者は職員と一緒に盛りつけ、テーブル拭き、食器洗い等、できることをしている。季節の行事食(おせち、ひな祭りなど)やオムライスにケッチャップでトッピングを楽しんだり、誕生日にはケーキでお祝いをするなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューのもと、栄養バランスが配慮されている。それぞれの健康状態により減塩・形態(一口大)・主食の量が決められている。食事摂取量・水分量の確保状態も一目で分かるよう記録している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、誘導している。ご自分でできない方は介助で行い口腔内の清潔保持をしている。義歯の方は洗浄剤につけ衛生管理している。利用者毎に口腔ケアの記録を取り、実施漏れのないようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間のパターン・排泄状況を把握すると同時に、本人からのサインを見逃さないようにし、さりげない形でトイレの誘導を行っている。	「リズムパターンシート」を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけをして誘導して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を少しでも和らげるため、水分補給や食べ物・リハビリ体操・腹部マッサージを取り入れ軽減を図っている。改善が見られない時は医師と相談して便秘の解決を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の方の状態に応じて入浴を行っている。入りたくない方は無理に入浴を勧めずタイミングを見て声かけを行っている。又体調によっては清拭・シャワーなどの対応を行い清潔保持をおこなっている。	入浴は毎日午前中は可能で、体調によって清拭、足浴シャワー浴、部分浴の対応をしている。好みの湯加減とし、職員と話しながらゆっくりと入浴を楽しんでいる。入浴したくない人には無理強いせず、時間を変えたり、言葉かけの工夫をして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境を整え、一人ひとりの安眠パターンに合わせて対応している。昼間でも状況に応じて居室で休息できるように対応している。室温にも気付け、快適に眠ることができるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の情報は見やすく、ファイル・整理され必ず目を通し目的や副作用、用法について理解するようにしている。また服薬後の状態についても症状の変化を確認するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の得意なこと、興味あることを見つけながらリクリエーションなど参加してもらっている。テレビ・DVD・映画鑑賞・紙芝居・カルタなど楽しみごとを提供するなど取り組んでいる。また本人の力にあった役割をしてもらうことで、生活に張り合いを持っていただけるよう支援している。	洗濯物たたみ、縫い物、食事の盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、新聞や週刊誌を読む、小説を読む、ぬり絵、折り紙、トランプ、カルタ、計算ドリル、しりとり、紙芝居、ことわざゲーム、歌を歌う、風船バレー、ラジオ体操、嚙下体操、リハビリ体操、テレビやDVDの視聴、季節の行事(初詣、書初め大会、節分祭、ひな祭り、七夕祭り、敬老会)、クリスマス会でのくじ引き、工作の日、誕生日会等、活躍できる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度、外出して季節感を味わってもらっていたが、今年度は何処へも外出できていない。再開できれば、ご利用者様にも行きたい所の希望を聞き、少しでも笑顔、気分転換が出来るように支援していきたい。	外出支援が困難ななか、天気がよい日は拠点施設敷地内の散歩をする他、家族の協力を得ての受診のための外出など、戸外に出られるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っている。外出時(受診のもの)の支払も職員が支援する。お金に拘りのある方はご家族の了承のもと、少額のお金を本人が持てるようにも配慮している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が事前に了解されているの方については要望あれば電話して安心できるようにしている。年賀はがき、友人への手紙を出せるように支援している。手紙も届くと本人に渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広くし、家具は利用者が移動しやすく配置している。季節ごとの作品・習字を利用者と一緒に作り、行事の写真を壁に飾っている。温度、換気、採光に配慮し、清潔かつ快適な生活空間の保持に努めている。	共用空間は、窓からの自然光で明るくゆったりとしている。壁には行事写真や利用者と職員がいっしょにつくった季節の作品を飾っている。台所からご飯を炊くにおいがして、生活感を感じることができる。加湿器を設置し、温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で自席を決めて居場所を作っている。又その人間関係作り・相性などによっては、その都度、席変えを行い、利用者同士が落ち着いた生活が送れるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。衣類や日用品は本人が使い慣れたものを持ち込んで穏やかに過ごせるよう工夫している。シーツ、枕カバーの交換などこまめに行い、気持ち良く過ごせるようにしている。	利用者はダンス、椅子、テレビ、衣装かけスタンド、衣装ケース、カラーボックス、仏壇、位牌、時計、化粧品、写真、週刊誌、日用品などを持ち込み、写真や工作作品、ぬり絵の作品や家族からの置物などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・自室はわかりやすく表示している。トイレは3室に1つ設けており、自力排泄がしやすいように工夫してある。移動・家事手伝い・作業時には必ず職員が見守りを行い安心安全な環境を作るように努力している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームーの宮の里

作成日: 令和 3 年 11 月 25 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	【評価の意義の理解と活用】 評価を生かした具体的な改善に取り組むまでには至っていないので、次のステップに向けてその点を工夫して取り組む。	全職員に評価の意義を理解してもらい、介護に生かす。	毎月の職員会議内で資料や事故報告書を共有し、評価の意義を理解させ、今後の介護や対策に活用していきます。	1年
2	35 (15)	【事故防止の取り組みや事故発生時の備え】 全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続。	勉強会は年2～3回実施しており、勉強会では訓練形式も取り入れております。結果職員は実践力を身につけてきたと考えております。今後も継続していきます。又、事故報告書を基に状況を把握し、それを生かした今後の対策を職員間で共有することを徹底します。	1年
3	36 (16)	【災害対策】 年2回の火災避難訓練に消防署・地域の人の参加を得ていないので、地域との協力体制の構築を強化する。	地域との協力体制の構築の強化。	コロナ禍の中、安全・安心を充分考慮し、協力を継続してお願いしていきます。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。